

## 理 念

人道に基づき赤十字病院として  
質の高い医療を提供します

## 基本方針

1. 人道を掲げる赤十字の原則に基づき、人々の健康と生命の尊厳を守ります
2. 人権を尊重します
3. 個人情報保護に万全を尽くします
4. 医療水準の向上に努め、最善の医療を提供します
5. 地域医療機関との連携により、個人に合った適切な医療を提供します
6. 救急医療の充実に努めます
7. 災害時の医療救護や国際救援に貢献します
8. 健全な運営に努め、末永く地域社会に貢献します



平成25年4月1日 新入職員を迎え入れました。

## 地域医療を守るために —救命救急センターの現状と課題—

救急部長 説田守道

当救命救急センターは、昭和60年(1985年)4月に三重県で最初の三次救急医療機関(救命救急センター)として設立されました。救命救急センターは急性心筋梗塞、急性期脳卒中および頭部外傷を含む多発外傷という、二次救急病院では対応できない複数診療科領域の重篤な疾患に対応することが主な役割です。しかし当地域には二次救急病院が少なく、当初より入院治療の必要な二次救急にも多く対応せざるを得ない状況でした。その結果平成13年頃から入院の必要の無い“一次救急”の受診数が急激に上昇し、平成18年にはその数は年間23000件に達しました。救命救急センター受診者の85%が不要不急の受診となったのです。同時に県内の病院から疲弊困憊した医師の退職が始まり、いわゆる『救急医療崩壊』が起きました。当地域ではその後様々な方法で適正な受診を呼びかけ、平成20年には“一次救急”の受診者数は約9000人まで減少しました。

ここ数年医師会や各一次・二次救急病院との連携が進み、更に消防法改正に基づく「三重県傷病者の搬送及び受入れの実施に関する基準」(救急隊による傷病者の観察・病状判断と搬送先の

決定)が施行されたことにより、当地域ではいわゆる「たらい回し」は発生していません。しかし、超高齢社会となり老々介護や独居世帯の増加も伴って、入院の必要が無くとも帰宅できない人が増えてきています。また、救急隊が軽症と判断し、適正な医療機関を選定しても、それに従わず救命救急センターへ搬送される例も少なくありません。それにより再び“一次救急”の受診者数が増加に転じています。このまま増加し続ければ本来の“救命救急”の業務に支障が出ることは必至です。また、県内ではいわゆる“コンビ二受診”が後を絶たず、病院の疲弊を招き医師の退職が止まらない地域が今も存在し、それら地域から当地域へ流入する受診者の増加も大きな問題となっています。受診する医療機関を適正に選択すること、また急変時には救急隊の判断に従って適正な医療機関に搬送されることが、地域医療を守るために最も重要なことだと考えられます。尚、救急隊が医療機関を選定するにあたり必要となる知識や技能の教育にも、当救命救急センターは力を注いでおります。皆様の御理解と適切な医療機関への受診が地域医療を守るために必要です。



# 腹腔鏡下前立腺全摘除術について

泌尿器科 副部長 芝原拓児

前立腺がんの治療法には、手術、放射線治療、ホルモン療法などがあり、癌の進行度だけでなく、年齢や患者さんの希望も考慮し、治療法が選択されます。

前立腺がんに対する手術は、下腹部を7～15cm程度切開して前立腺を摘出する開創手術が主に行なわれています。前立腺は骨盤の最深部に存在し、光が届きにくい奥深い狭い場所での手術となるために出血量が多くなったり、不確実な切除となったりする場合があります。また、手術侵襲のため社会復帰に時間を要することや、大きな傷が残ることなどが欠点です。このような欠点を補うため、腹腔鏡下前立腺全摘除術が開発されました。この手術は下腹部に0.5～1.2cmの小さな穴を5カ所開け、そこから内視鏡や手術器具を挿入し、おなかの中の様子をモニター画面に拡大して映し出しながら前立腺、精嚢腺、リンパ節を摘出し、膀胱と尿道を吻合します(図1)。内視鏡を通しての拡大視野のもとで手術が行えるため、前立腺の確実な切除、勃起神経や尿道括約筋の温存、膀胱尿道吻合をより確実に行うことができることで、入院期間の短縮、勃起能力の温存や尿漏れの早期回復

などが期待できます。欠点としては、難度が高く、丁寧な手術ですので開放手術に比べて手術時間が長くなることが挙げられます。またこの手術はどの病院でも行えるわけではなく保険診療で実施するためには施設認定の取得が義務づけられています。三重県下でこの手術ができる病院がないため、希望の方は県外の病院を紹介させていただいておりました。当科では2012年6月から、三重県で第一号の施設認定取得を目指して腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始いたしました(2013.4月に取得予定)。当院泌尿器科には泌尿器腹腔鏡技術認定医(三重県下で3人)が2人在籍しており、熟練した指導医を招聘し、現在までに9人の方に施行させていただいております。9人全員が術中、術後の合併症もなく、手術翌日から食事摂取と歩行が可能で、傷口が小さいため(図2)、開創手術と比べて明らかに疼痛が少なく、早期退院が実現されています(術後6～7日で退院)。このように患者さんにとってのメリットが多い腹腔鏡下前立腺全摘除術を安全、確実に受けていただくことができるように手術手技の向上に努めていきたいと思います。

図1

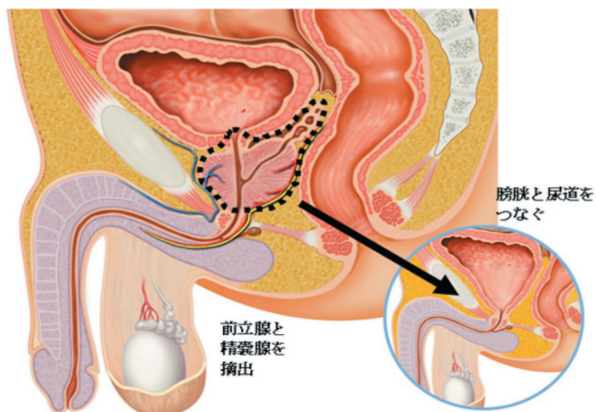
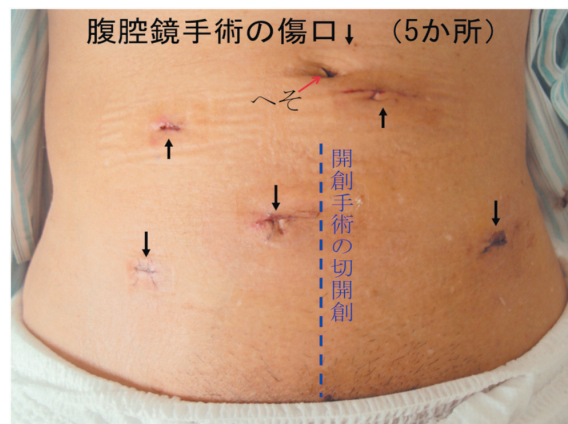


図2





# 「いわき市に避難している浪江町民健康調査」に看護師を派遣 ー 被災者への調査からケアやサービスを考える ー

看護師 鈴木美由起

浪江町は福島県浜通りの北部に位置する町です。2011年3月11日東日本大震災の津波により町の沿岸部は壊滅的被害を受け、福島第一原子力発電所事故により浪江町全域に避難指示が出されました。

その浪江町から委託を受け「いわき市に避難している浪江町民健康調査」を日本赤十字社と日本赤十字看護大学が実施、全国の赤十字医療施設から看護職が派遣されており、私は2月14日～3月15日の一ヶ月間派遣されました。

「健康面や医療面で困っていることは?」「避難先を何回変えましたか?」などといった約30項目のアンケートを通して健康面・生活面・地域活動への参加状況・行政とのかかわり方などを伺います。この調査を手がかりとして知らないところに避難し孤立化しつつある方々の声を聞き取り心身両面からの健康状態を把握して適切に健康サービスやケアが受けられるように図ります。場合によっては早急に医療機関に受診を勧めたり、保健師さんに情報提供する必要が出てきます。事務所で再度訪

問・電話調査を行い経過観察していく場合もあります。

先の見えない不安、他人からの心無い言葉などから精神的にダメージを受けている方々がたくさんいらっしゃるということ、思った以上に復興が進んでいないことを強く肌で感じてきました。

浪江町の方々はもちろんのこと被災された方々みなさんに早く安心した生活を取り戻し笑顔で暮らせる日々が送れることを心より願っています。



## 伊勢赤十字病院 就職説明会



●「安全・安楽を追求した吸痰」では、モデル人形を用いて、チューブの位置を確認し、模擬痰を吸引しました。



●「体位変換の極意」では、患者さんも看護師も楽に体位変換できるコツを教えていただきました。



●「ハンドマッサージで癒されよう」では、日本赤十字社健康生活支援講習会講師を務める看護師にハンドマッサージをうけました。手から伝わるぬくもりと心地よさ、至福のひとときを過ごしました。



3月23日(土)・26日(火)に行われた就職説明会では、「見て聞いて体験して感じる看護のこころ」と題し、5つのブースでそれぞれ看護のこころと技を体感していただきました。



●「香りで癒す、アロマ石けんづくり体験」では、好きな香りの精油をブレンドし、アロマせっけんを作りました。まあるいかわいの手作りの石けんはお土産に持って帰っていただきました。

●「フライトナースがゆく!」では、フライトスーツ(伊勢赤十字病院オリジナル)を着たフライトナースから、ドクターヘリの運航状況やフライト時に携帯するバッグの中身、現場での対応等の話を聞きました。

## 教室のご案内

平成24年度より教室を受けられた場合、健康保険適用となりますので初・再診料・集団指導料の一部負担金をお支払い頂くことになります。ご了承下さいます様お願いします。(試食のある場合は別途材料費をいただきます)

伊勢赤十字病院 栄養課

## 教室参加のながれ

- ①外来または入院病棟で予約を入れて下さい。
- ②参加当日は直接、教室開催会場に入して下さい。
- ③診察券を教室の受付に渡して下さい。
- ④教室終了後、自動支払機にて清算して下さい。

\*必ず診察券をご持参下さい。

## 肝臓病教室

### 【日 時】

5月20日(月)	13:30~15:30	慢性肝炎の診断と治療
9月7日(土)	10:00~14:00	C型肝炎の診断と治療 (日常生活と肝臓病食について) (食事あり)
11月18日(月)	13:30~15:30	肝硬変の合併症と治療

### 【場 所】

伊勢赤十字病院 5階 会議室7

### 【参加費】

9月のみ食事代として500円が別途かかります。

### 【お問い合わせ・お申し込み】

伊勢赤十字病院 肝臓内科  
外来 3番受付

## 糖尿病教室

### 【日 時】

5月10日(金)	9:00~13:00
6月14日(金)	9:00~13:00
7月12日(金)	9:00~13:00
8月16日(金)	9:00~13:00
9月20日(金)	9:00~13:00

### 【場 所】

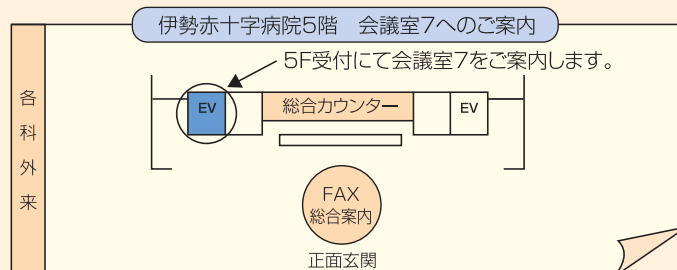
伊勢赤十字病院 5階 会議室7

### 【参加費】

500円(昼食あり)

### 【お問い合わせ・お申し込み】

伊勢赤十字病院 糖尿病代謝内科  
外来 3番受付

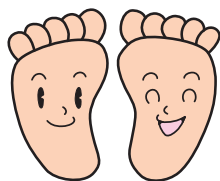


## 糖尿病の方へ

## 足でお困りのことはありませんか？

血糖値が高い状態が続くと、神経障害によって足がしびれたり、動脈硬化によって血の巡りが悪くなります。神経や血管の末端にある足は一番初めに様々な異常があらわれやすくなりますので、糖尿病の方は足に注意が必要です。また、血糖値が高い状態は体の抵抗力を低下させるので、小さな傷でも悪化しやすく、治りにくくなります。

フットケア外来では、日本糖尿病療養指導士が足を守るためにはどうしたらよいか、一人一人に合った方法を支援しています。



まずは、ご自分の足を見ていただき、おかしいと思ったら、主治医の先生にご相談ください。

## フットケア外来

木曜日(AM・PM)

金曜日(PM) 予約制

【お問い合わせ】 外来 3 番受付

## 看護師・助産師

## 募 集 中 !

### 就職説明会

日時：平成25年6月8日(土) 13:00~16:00

平成25年7月28日(日) 13:00~16:00

### インターンシップ

日時：平成25年8月8日(木)・9日(金) 9:00~15:30

### お問い合わせ

伊勢赤十字病院 研修センター

電話：0596-65-5011 E-mail：kenshu@ise.jrc.or.jp

